

平成28年度

第2回岡山市総務・市民政策審議会における主要な意見

1 日 時 平成28年11月1日（火）午後2時00分～午後4時04分

2 場 所 岡山市本庁舎3階 第3会議室

3 出席者 委員8名

4 傍聴者 報道 1名、傍聴者 1名

5 議 題

- (1) 岡山市文化芸術振興ビジョンの改定について
- (2) 岡山市行財政改革推進プラン（仮称）の策定について
- (3) 岡山市公共施設等総合管理計画（骨子案）について

6 第2回岡山市総務・市民政策審議会での主な意見

(1) 岡山市文化芸術振興ビジョンの改定について

- ・イベントはどれくらい注目されているかが重要。県外市外からの来場者数とか計る指標があれば、やっていることの波及効果がわかる。岡山以外の方が岡山に来たことを指標に入れるとインバウンドの多い時代なので注目度が上がって評判が立ちやすいのではないか。
- ・入場料が安い公演は市内の来場者が多いが、少し高いものになると客入りが悪い。県外からお客さんを呼ぶことをしっかりやってほしい。その場合、良い旅館も必要になるので、後樂園近辺に誘致してほしい。
- ・人の回遊性について、新しい施設ができたかどうか分からないが、岡山シンフォニーホールの終演後、店の閉店が早く、公共交通も遅い時間は極端に少ない。公共交通機関をしっかり動かし、店もオープンし、客を寄せるように持って行って欲しい。
- ・シンフォニーと新市民会館のすみ分けについて。シンフォニーは音楽の殿堂、新会館は別の部門ということがしっかりできるか心配。
- ・高松・岡山で外国人を観る機会が多く、瀬戸内国際芸術祭と岡山芸術交流が他の国か

らの作品が多いからで、今年はヨーロッパ方面が多いと聞いている。環瀬戸内という捉え方で、高松から島々を巡り最後に岡山に来て市内に滞在して岡山芸術交流を観て帰る。そうなる泊まりになるので、地域の文化、食とかも大事になる。

- ・ 3年に1度開催されている瀬戸内国際芸術祭を活用する場合、開催しない年があり、新しい文化芸術施設に向かって人材育成をするなら毎年の積み重ねが必要。施設ができていきなり人材育成はできない。
- ・ 岡山市芸術祭の企画提案事業について、若者達に補助金として出すのではなく、有効であれば100%支援もありうるのでは。学生とか高校生の時代にそういう経験をして県外に出た人が、もう一度岡山で自己実現をしたいと帰ってくるような今後5年間のあり様を考えていく必要がある。
- ・ 岡山市だけで全てやろうとせず民間との情報交換・情報共有をさらに積極的に推進したうえで、民間の活力を引き出すような積極的な提案や関わり方を市の方が提示できればよいのでは。単なる商店街任せではなく、他地域の情報交換もしながら、商店街をはじめ民間団体と一緒に岡山を盛り上げるためにどうしたらいいか知恵を出し合うような活動を推進していけばよいと感じた。
- ・ 人材育成の図はとても大切になってくる。テーマ2の「はぐくむ」の指標で具体的な数値目標を掲げているが、きっかけづくりの次の具体的な方策について知恵を絞る時代になっている。また、具体的施策について市民に対して見える化し、適宜市民に問いかけていき数値目標を目指していく。推進体制については横連携がよくできた図なのでこれを具体的に進めていけたらよい。
- ・ 文化芸術の交流はすごくいいと思うが、岡山の場合「つくる」「ささえる」「したしむ」「つなぐ」「はぐくむ」、場のイメージが難しい。倉敷美観地区は大原美術館があり美術館を中心とした街づくりのイメージがある。新しい文化芸術施設を整備するのであれば建物の持つ力と建築の力、その情報発信をきっちりつくり、海外のアーティストがあそこで演奏したい、展示会をしたいという雰囲気づくりを合わせてやらないといけない。中長期的に場のイメージがしやすいようにつくっていくとよいと思う。
- ・ 県外・国外の人を呼んでくることは大切だとは思いますが、それだけのものを創り、公演をしないと来てもらえない。岡山には交響楽団があり、立派な指揮者を迎えているので、費用の面を含めて検討して頑張してほしい。

## (2) 岡山市行財政改革推進プラン（仮称）の策定について

- ・全体としては非常によい取組をしている。人口減少により、財政が厳しくなることは目に見えており、国も財政もかなり厳しい中で岡山市が健全な財政を維持しようとしている努力も具体的に見えている。
- ・健全な財政の維持は堅持していくべきであり、特に、インフラの更新・整備は安全・安心に関わる部分でもあり、必ず取り組まなければならない、市民の方に具体的な数値でご理解をいただき行政改革を進めることが大事である。
- ・市民の方から、老朽化したインフラを閉じるといった一般的に痛みを伴うことについては、コミュニティが衰退してしまう等の様々なご意見が出ることは当然のことであるが、次の世代にバトンをきちんと渡していくためには、人口の推移を市民の方にきちんとご理解いただかないと、ますます絞るといった議論だけが先行すると施策がとてども打ちにくいということがあると思う。
- ・全ての市民に受け止めていただいた中で、職員の意識改革などもあわせてやっていくことがディスクロージャーのなかでは必要になってくる。勇気をもって市民の方に今後の岡山市の行く末を見守っていただきながら、ともに歩いていくといった広報が必要になってくる。
- ・市だけで全てをやろうとすると賄えないところに来ている。みんなで共有して意識を高めていく広報、つまり、岡山市を構成するステークホルダーの方々が自分たちが何ができるのか、そして、それをつなぎ合わせて、行財政改革の取組を誇りを持って後押ししていくぐらいの市民のマインドを醸成していくような広報が必要。もちろんそれには大学や経済界等も一緒に話し合っ進めていくという流れがあってもいいのでは。
- ・歳出の占める割合で円グラフを掲載してはどうか。
- ・社会保障関係経費は右肩上がり、高齢者の比率も非常に増えていくのは将来的に財政にとって負担になる。その中でも、教育再生とまでは言わないにしても、教育予算を拡大させて岡山市の公立の学校の教育レベルを上げていけば、学校の授業に出れば安心ということが起こって、塾代とかが減り、非常に暮らしやすくなるのではないかと。未来への投資としての教育予算を考えて欲しい。

- ・施設管理費の増加や人口減少に伴う市税などの歳入の影響などの試算を出しているのか。また、長期の視点に立って、今後岡山市として、人口減に備えるためにどういったことを覚悟しないとイケないのか。
- ・今後の収支見込みは32年度までしか示していないが、もっと先を見据えた20年、30年のスパンに立ってシビアに考える必要があるのではないか。
- ・長期の収支見込みについては、税などの歳入は変数が多く、見えにくい部分があり、民間シンクタンクにおいても超長期でも10年くらいがいっぱいいだ。
- ・今だから間に合う部分があるが、一気に人口減少になり始めた際に、手を打つ余裕がある自治体ばかりではない。人口ビジョンで示された厳しい状況下において、広域連携も含め、この岡山市をどう維持していくのか、市民の生活、暮らしぶりをどう支えていくのかということをお前提に考えながら、市民が腹をくくらなければ立ち行かない。
- ・周辺の自治体も含め、最終的に岡山市や倉敷市が核になって支えていかなければ、岡山県全体として、次の世代を見据えて、ある程度見越しながら、今やるべき話はやる間に何をやるのかという決断も必要。そのためには、市民の方にご理解をいただければ厳しいところがあるので、悲観的な話ではなく、持続可能性を維持するためにいつ何をすべきか、という議論は市民の皆さんと一緒に考えていくという姿勢が必要なので、広報・広聴を丁寧に行きながら進めていく勇気、これを持たなければいけないステージに入っている。
- ・耐震工事後、幼保一体化に伴い整理するという無駄な事業がある一方、避難場所となる学校において、必要となる災害支援物資を入れる倉庫がない状況がある。使うところにはしっかり使う、そして、部局をまたぐのであればしっかり連携を図ってもらいたい。
- ・高齢者が増えて事務的経費が発生することは大変なことだが、終の住みかとして岡山市で生涯を閉じたいという人が増えることも一つメリットになるのではないか。そして、高齢者をいかに町の中で活用させるのかについて考えてみると、少し新しいイメージが湧くのではないか。

- ・人口減の問題だけがネックになっているが、岡山市としては、皆さんが一生懸命いい案を考えていただいて安心して住めるまちになっていると思う。
- ・職員数もピーク時よりずいぶん少なくなり、職員の事務の負担もかなり大きいものがあるのではないか。その中でスクラップ・アンド・ビルドで次々と事業の見直しはされていると思うが、やはり市民との協働を考えていただいて、市民でできるところは市民に任せていただければありがたい。
- ・5ページの「公債費は」の文章は一般市民にはわかりづらいので文章を考えていただきたい。また、公債費の表がないので検討いただきたい。
- ・岡山市は長年、行革について一生懸命やって効果も出ていると思う。引き続き人口減少や国の交付金が減るだとか厳しい状況の中でも、引き続き頑張ってください。
- ・本日いただいた意見を参照して、より市民のわかりやすいようなものにしていただきたい。

### (3) 岡山市公共施設等総合管理計画（骨子案）について

- ・公共施設等マネジメントは、やらざるを得ないところにきており、市民の合意を極力いただきながら粛々といかに進めていくのかといった実行段階に入っていく時期である。
- ・地域によってスタイルが違うため、地域性を生かし、住民の方々を尊重しながら進めていく必要がある。
- ・合意形成を進めるためには、ワークショップ的な、話をするという場が必要で、スキームを構築していく過程を市民と共有していくことが大事。
- ・人口の多寡にかかわらず施設を運営することは無理があるため、稼働率の悪い周辺部の施設を廃止し、中心へ集約することは進めざるを得ないし、明確にやったほうがよい。
- ・施設の統廃合について、高齢化が進展する中、コストと利用状況で見ていく時に、高齢者の利用状況等に配慮した判断が必要。

- ・計画（骨子案）は本当によく考えられており、具体的には是非生かしてもらいたい。